

- ① 院内感染を防ぐために新型コロナウイルス感染症対策を徹底
 - ・新年のご挨拶
- ② 教えて！この言葉「電子カルテ」
 - ・新任のご挨拶
 - ・ナディック通信
 - ・病院からのお知らせ

- ・ボランティアさん募集
- ・特定基金 医学部附属病院支援事業へのご協力をお願い
- ・禁煙のお願い
- ・かわらばん HPのご案内

名古屋大学医学部附属病院

理念 ● 診療・教育・研究を通じて社会に貢献します。

- 基本方針 ● 1. 安全かつ最高水準の医療を提供します。 2. 優れた医療人を養成します。
3. 次代を担う新しい医療を開拓します。 4. 地域と社会に貢献します。

〒466-8560 名古屋市長和区鶴舞町65番地 TEL 052-741-2111 (代表)

<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/>

ホームページで「かわらばん」のバックナンバーをご覧いただけます

TOPICS ① 院内感染を防ぐために 新型コロナウイルス感染症対策を徹底。



全世界で猛威をふるう新型コロナウイルス感染症。当院では患者さんや職員を守るために、さまざまな感染予防対策を講じています。感染対策の専門家である中央感染制御部の八木哲也教授と感染管理認定看護師の安立なぎさ看護師長にお話を伺いました。

誰でもうつる・うつす恐れがある
新型コロナウイルス感染症

新型コロナウイルスは、風邪の原因となるウイルスや「重症急性呼吸器症候群(SARS)」ウイルスなどを含むコロナウイルスの一つです。「新型コロナウイルス感染症(COVID-19)」は一般的には飛沫や接触によって感染し、感染から発症までの潜伏期間は2日～14日程度とされています。

発症すると咳や発熱、筋肉痛、嗅覚・味覚異常などさまざまな症状が現れますが、その病状は8～9割の方が軽症です。ただ、1～2割の方が重症化し、酸素吸入や人工呼吸器が必要となります。重症者の多くは高齢者や基礎疾患を持つ方で、若い方は無症状か軽症が多いのが特徴です。この感染症の難点は、症状が出る前や無症状でも他者にうつす可能性があることで、感染の広がりをいかに最小限に抑えるかが重要です。

重症者の治療にあたるため
病棟を完全に分離

当院は地域医療の最後の砦として新型コロナウイルス感染症用に救急病棟を設け、重症者の治療にあたる病棟を完全に分離して対応しています。また、症状の軽い方や感染の疑いのある方専用の病棟も設け、他へウイルスが持ち込まれないよう病棟を完全に分離して対応しています。医師や看護師は新型コロナウイルス感染症患者の診療には、防護服や防護マスク、アイガードなどを着用して治療や看護に臨み、普段からマスク着用を遵守し、食事も個々にとるなど感染予防対策を徹底しています。

一方で、無症状の感染患者さんが手術を受けたり入院したりすると、術後の予後への悪影響や院内感染が危惧されるため、手術や内科疾患で入院予定の患者さんには事前にPCR検査を実施しています。PCR検査は感染予防のため屋外の車両で行い、患者さんには安心して治療に専念いただける体制をとっています。



また、中央感染制御部は国公立大学附属病院感染対策協議会の事務局として、新型コロナウイルス感染症対策に関する情報共有を進めており、今後は最新情報を感染対策に活用していきたいと考えています。

感染症を克服するために
皆さんと力を合わせて

当院では3月から入院患者さんの面会・外泊を禁止し、長らくご不便をおかけしていますが、患者さんやご家族のご理解・ご協力のもと、これまで院内感染を防いできました。現在は外来人口でも体温の計測を行い、来院されるすべての方にマスクの着用や手指消毒の徹底、密の回避などのご協力をお願いしています。

もし、当院の患者さんで発熱などの異常がある場合は、ご来院の前に外来にご連絡をいただき、担当医師にご相談ください。気になる症状がある場合は、現在は地域の診療所でもPCR検査が受けられる体制になりましたので、かかりつけ医がある方はそちらにご相談ください。この感染症の克服には、皆さんのご理解とご協力がかかせません。今後とも力を合わせて、感染予防を徹底していきましょう。

新年のご挨拶



病院長 小寺 泰弘

新年明けましておめでとうございます。昨年とは新型コロナウイルス感染拡大のためわが国の医療は大きなダメージを受けました。当院でも様々な対応が必要となり、患者さんには面会・外泊の禁止など多大な不自由をおかけしました。また、職員の方々にも先の見えない不安と共に大変なご苦労をおかけしました。after コロナの世界を先読みして学術面でも財政面でもV字回復するという展開は、残念ながら私の至らないリーダーシップでは容易ではないと考えております。しかし、with コロナとしての取り組みもまた重要であり、且つより現実的でもあります。コロナの診療に加えて当院がこの地域で本来果たすべき役割をいかに守り通し、より良い医療を患者さんへ提供し続けるという本質的な課題をしっかりとこなすことが、今後の名大病院の発展にも繋がると考えております。また、コロナ禍においても政府は働き方改革の推進という方針を緩めることはなさそうです。この大きくて重い課題を忘れないようにしながらも、今年も我々職員一丸となって目の前に差し迫った課題をひとつひとつ解決し、名大病院らしい医療を提供していきたいと思っております。本年も何卒よろしくお祈りいたします。



事務部長 永家 清考

新年明けましておめでとうございます。皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。昨年は、新型コロナウイルス感染症に始まり、同感染症に終わるといふ、医療機関にとっては待たなしの対応が求められた激動の1年でした。この影響から病院運営は大変厳しい状況となりましたが、患者さんやそのご家族の皆さんのご理解・ご協力、職員の方々の弛まない努力、自治体からのご支援により、何とか持ち堪えることができそうです。今年は、昨年悪化した病院運営の立て直しに向け、教職員の総力を結集して努める大変厳しい1年になると想像されます。このため、様々な収入改善策や経費削減策を推進するにあたり、ご協力をお願いすることがあると存じますが、引き続きご支援いただきますようお願い申し上げます。



看護部長 藤井 晃子

謹んで新春のお慶びを申し上げます。昨年は新型コロナウイルス感染症が突然世界を襲い、世界中の人々の生活が一変しました。医療を受ける環境も変化しました。しかし、看護の本質は変わりません。いつも患者さんにご家族の一番近くにいる当院の看護師は、「愛(やさ)しく、温かく、安全な看護の実践を目指します」という理念のもと、看護を提供させていただきます。今年から当院において「特定行為※看護師」が活躍いたします。看護師による特定行為を実施する利点は、看護師が医療チームの一員として、患者さんの状態に応じタイムリーかつ迅速に適切な医療を提供することにあります。皆さまには、当院の診療と教育の役割についてご理解とご協力をお願い申し上げます。新しい年が明るい年となりますよう心よりお祈りし、新年のご挨拶とさせていただきます。 ※特定行為：『特定行為に係る看護師の研修制度』(国で定められた研修制度)を修了した看護師が、あらかじめ医師が定めた手順書に準じて、診療の補助を行うこと

教えて! この言葉

電子カルテ

メディカルITセンター長 白鳥 義宗

「電子カルテ」は、今や全国の400床以上の病院では78%以上に導入されており、大きな病院では見慣れた物となりました。そのため、知っているようでよく知らない言葉となりつつあります。

「電子カルテ」というときに、①お薬や物品のオーダーやそれに伴う会計のためのITシステム全体を指すときと、②書かれた中身であるカルテ(診療録)を指すときがあります。

①については、どこまでの仕組みを「電子カルテ」と言うのかは、レベルや範囲が病院によって様々です。技術の進歩もあり、専門家の間でも時に議論となり、時代と共に少しずつ変化しています。

②については、法律上の少し難しい話をし

ますと、昔は単に「医師のメモ」という扱いの時代があり、読めないカルテがたくさんありました。しかし今は「公文書」として医療行為の証拠資料や医師・看護師など医療者間の情報共有などに使用されています。そのため、医療者による改ざん、隠ぺい、虚偽記載などは禁止されており、嘘を書くと罰せられます。さらに、病院医療者がお話した内容は、守秘義務や個人情報保護法によって、患者さんの大切な権利(プライバシー)として守られるようになってい



新任のご挨拶

この度、令和2年10月1日付けで、名古屋大学医学部附属病院眼科長/教授を拝命いたしました。紙面をお借りしてご挨拶申し上げます。



眼科長/教授 西口 康二

常的に連携しています。また、名大病院ならではの先端医療も追及していきたいと思っております。皆さまには、今後ともご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

Nagoya Disease Information Center ナディック通信



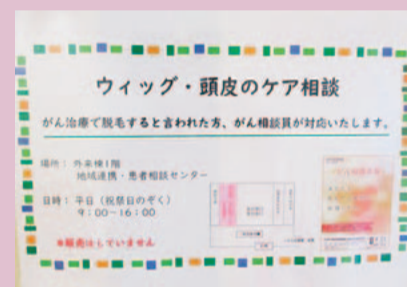
ナディックの利用休止について

患者情報センター(広場ナディック)は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため利用を一時休止しています。

それに伴い、毎月開催していましたが教室(手作り、ちぎり絵、折り紙)は当面の間休止。患者の集い、認知症サロン、肝臓病教室などの患者さん向けのイベントについては再開時期が決まり次第、院内掲示等でお知らせする予定です。(再開後も感染状況が悪化した場合など、再び利用を休止する場合がございます。)

なお、がん患者さん向けの「ウィッグ・頭皮ケア相談」については外来棟1階「地域連携・患者相談センター」にてがん相談員が対応しております。

(問い合わせ先 地域連携・患者相談センター 052-744-2663)



■ ボランティアさん募集

当院ではボランティアさんを募集しています。詳しくはホームページをご覧ください。



★ ボランティアホームページ
<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/recruit/volunteer/>
 『名大病院 ボランティア』で検索♪

病院からのお知らせ

提案書からの改善報告

本院では、患者さんへのサービス・アメニティー等の満足度向上を目指し、患者満足度委員会において、院内に設置してある提案箱へ投函された提案書のご意見から、サービス改善策を検討し実施しています。

現在、1ヶ月あたり約50件のご提案をいただいております。提案書は、回収次第、現場で対応を進めるとともに、その後開催される委員会にて1件ずつ検討することで、院内のサービス向上に努めています。

サービス改善における主な対応については、外来棟1階中央待合ホールに設置されているモニターへ掲示しております。

患者さんが利用する設備や機器などは、日々の点検や定期的な更新を実施しておりますが、2020年度上半期では、特に以下の改善を実施しました。

〈院内における主な設備面の改善〉

- 1) 中央診療棟A棟2階ピアノ広場の1人掛椅子9台更新
- 2) 病棟1階入退院受付のテレビモニターの天吊り対応

〈院内における主な運用面の改善〉

- 1) 立体駐車場A 1～2階まで階段開放



▲ソファが新しくなりました(中央診療棟A 2階ピアノ広場)

■ 禁煙のお願い

患者さんの健康をサポートすべき医療施設として、病院敷地内の全面禁煙を実施しています。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



特定基金 医学部附属病院支援事業へのご協力をお願い

当院では本事業を通じて、診療環境の充実、患者さんへのサービスのさらなる向上、先進的な臨床研究の推進を進めてまいります。皆様のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

詳細は、ホームページまたは外来棟各階に置かれているパンフレットをご覧ください。

URL: <https://www.med.nagoya-u.ac.jp/kikin/hosp-kikin/>

QRコードでもアクセスできます!

